彼方【かなた】

校長通信
H30.4.10
Vol.2

【平成三十年度　第四十回　入学式　式辞】

二八四名の新入生の皆さん！本校への入学おめでとうございます！保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。

また、ご多用中にもかかわらず本日ご臨席を賜りました我孫子市教育委員会教育委員　長谷川浩子様を始め、多くのご来賓の皆様には心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、新入生の皆さん、入学式のこの校長式辞は、私が皆さんと一緒につくる中学校で最初の授業です。これから「人としての生き方」について一緒に考え、勉強する機会をつくっていきたいと考えています。今の二年生が入学したときは、「挑戦」というテーマで、アフリカの祈祷師が、みんなのために雨乞いの踊りをするというお話をしました。彼が躍ると不思議なことに必ず雨が降るのです。そんなバカな話があるかと言われますが、必ず降るんです。その理由は…、部活の時に先輩に聴いてください。

今日は、二〇〇〇年にアメリカで公開された「ペイ　フォワード」という映画のお話です。皆さんと同じ中学校一年生、トレバー少年が主人公の映画です。社会科の授業で「もし君たちが世界をもっとよくしたいと思ったら、何をしますか？君たちの手で世界をより良くする方法について一緒に考えよう！」という課題が出されました。この難題に彼が出した答えは…。

中学校一年生のトレバー少年が考えたアイデアは、人から受けた善意を、そのままその人に返すのではなく、別の三人に贈るというとても簡単な方法でした。でも、それを実現させるには、みんなが実際に行動に移さないと途中で善意の輪が切れてしまいます。映画の中でも最初に善意を受け取った三人は戸惑っていました。でも、少しずつその善意の輪が広がっていくのです。実は、これと似たお話しが日本にも古くから伝えられています。それは、「恩送り」という言葉です。「恩返し」ではなく、自分が受けた恩を別の人に贈るという考えです。トレバー少年が考えた「ペイ　フォワード」は、まさに日本の「恩送り」という考え方と全く同じです。ただ彼の発想のすごいところは、一人に贈るのではなく、三人に贈るところです。一人から三人、三人から九人、九人から二七人、三倍ずつ増えていくので、六回も繰り返されれば七二九人、白山中の生徒数が七七三人ですからほぼそれに近い数です。十一回繰り返せば我孫子市の人口約十三万人を軽く超えます。アメリカでは実際にその映画を機に「ペイ　フォワード運動」が巻き起こりました。ドライブスルーで買い物をした人が、「後ろの人たちの分も払っておくよ！」といって多めの料金を置いて行き、その次の人はそれを聞いて、また少し多くのお金をおいていく、数ヶ月間その寄付がなくなることがなかったそうです。

テレビや新聞で耳を疑うようなニュースが流れるたびに悲しい嫌な思いをします。「この先、本当に大丈夫かな？」と思うこともあります。でも、そういう事を見聞きしたとしても「自分に解決できる訳もないし…」「自分にはあまり関係もないし…」と考え、聞き流し、日々を送っているのではないでしょうか？トレバー少年は、社会科の先生から出された「自分でできることを考えなさい」という難題に向き合い、自分で考え、行動に移していきました。映画の最後はお話しませんが、彼が投げた一石は、世界中に大きな波紋となって広がっていったのです。

「人」が集まって「市」になり、「市」が集まって「県」になり、「県」が集まって「国」や「世界」がつくられます。ということは、最初の「人」が変われば、やがて「世界」も変えられるかもしれない、トレバー少年はそう考え、実行したのです。同じように考えれば、「人」が集まって「学級」が作られ、「学級」が集まって「学年」や「全校」になっていくわけですから、学校の中に小さな「ペイ フォワード」運動を巻き起こせば、たった六回繰り返すだけで白山中学校が善意で溢れ「笑顔満載の学校」になるはずです。私から新入生のみなさんの中の三人にミッションを渡しました。それが本当に広がるか試してみたいと思います。実現させるキーワードは、「思いの行動化」と「つなぐ」です。新入生から広がっていくことを期待しています。

最後になりますが、ここにいる新入生を始め白山中が善意に溢れ、「笑顔満載の学校」となりますよう、ご来賓の皆様、保護者の皆様に、ご支援、ご協力をお願い申し上げ、式辞といたします。